

学力形成過程の評価に関する研究

その1 学力評価の立場

○ 八田昭平 (長崎大学)

桑垣一夫 (千葉県教育センター)

研究のねらい

この研究は、学力評価のあり方を、授業=学力形成過程の中において、子どもたちの授業にとりくむ姿(行動様式、思考体制)の分析考察の中から探ろうとするものである。

学力についての見解

学力とは、もっとも広く、人間が自己をとりまく環境(世界)に対し(すなわち、自然や社会や人間に対し、その中にあって)自己(自分たち集団)の生活を確立し、未来を開拓していく力、いわば生きぬいていく力と考えてよいであろう。

学力評価の方向

第一に、子どもたちの成長過程につきそい、指導の責任をおう教師、父母、そして最後には子ども自身によってなされるようなものでなければならない。

第二に、評価の対象として子どもたちはすべて、その子どもなりの考え方が認められるような評価でなければならない。

第三に、それはまた、ある一時点において静止してとらえたようなものであってはならない。二点三点において評価され、それが統一的に関連づけられるようなものであることが望ましい。

第四に、いくつかの時点における評価を結びつける場合、直線的、短絡的な方法をとるには限らない。人間の心の動き、思考の屈折をそこに含みこんで、しかもそれを統一するようなものであることが必要であろう。

第五に、子どもを、追いつめた所で真にその動きつつある方向までも含めて、評価しなければならないであろう。

学力形成過程についての仮説

仮説Ⅰ. 授業と子どもの主体性

授業は子どもたちの主体的な学習をおこすための場面の設定である。場面は発問、板書、資料(文化財など)、学級のふんい気、その他複合する要素から成立する。

仮説Ⅱ. 教師と目標

教師は、教材研究に基づいて目標を立て、授業にのぞむべきであるが、それは相対的な価値観に基づいたものであり、授業場面の中で修正され、具体化されていくのである。

仮説Ⅲ. 子どもと集団

子どもの主体的な行動・思考は、集団の中できたえられ、授業場面に適応しつつも、学習のしかたを学んでいく。その過程で個性的な成長発達がはかれる。

仮説Ⅳ. 評価と指導計画

子どもの評価は、授業の結果を評価するだけでなく、授業場面での行動様式(思考体制)の特徴をつかむことであり、その基礎の上に立って、はじめて指導計画を立てることができる。

研究の計画

小学校1年、4年、中学校1年をとりあげ、同一抽出児を3年間、継続的に追跡する。

学力形成過程の評価に関する研究

その2 評価の方法と視点

○ 桑垣一夫 (千葉県教育センター)

八田昭平 (長崎大学)

1. 評価の方法とそのシステム

- ① 「指導と評価案」を作成する。授業者が中心となり、観察者との話し合いで作成する。
- ② 「観察記録」を作成する。抽出児の観察担当者があらかじめ設計した形式の用紙に観察事項を記入する。
- ③ 「評価記録」を作成する。観察者が評価者となり、「指導と評価案」「観察記録」の記載事実を検討し、あらかじめ設定した視点、「評価記録」の1~6.までの項目について記述する。
- ④ 「評価記録」の各項目を通じた思考の特徴を評価し、7~8.の評価項目に記述する。
- ⑤ 「評価記録」を累積し、評価する。抽出児の年間を通じた思考の傾向、変化の特徴を評価する。

2. 評価の視点とその仕かめ

「場面と行動」……仮説Ⅰ「授業と子どもの主体性」に対応する。評価項目「2.活動形態の考察」がこれにあたる。ここでは、A.受容活動 B.思考活動 C.発表活動 D.持続性・集中性の4つの角度から、その現実的な活動の形態を評価する。

「教育目標の分析」……仮説Ⅱ「教師と目標」に対応する。評価項目「6.目標への到達度」「7.思考体制の傾向」「思考体制の変容」がそれである。教師は、子どもが目標を実現していく過程での個性的な姿、およびその変容する姿を評価する。

「子どもの個性的な特徴の分析」……仮説Ⅲ「子どもと集団」に対応する視点である。子どもの個性的な目標実現の姿は、集団の中でなえられていく。評価項目「3.発言内容の考察」「4.筆記内容の考察」は、集団における思考活動を、A.視野 B.視点 C.意欲・態度といった角度から評価する。「5.集団参加のしかた」は、その活動形態を、A.主流的活動 B.抵抗的活動 C.疎外的活動の3つの角度から評価する。

「子どもの理解と計画の変更過程」……仮説Ⅳ「評価と指導計画」についての視点である。評価項目「1.授業参加の連続性」がこれにあたる。ここでは、教師による意図的な教材関連に対応した子どもの思考の連続性と、無意図的なものはあるが、授業場面でてくる思考や経験の連続性がある。A.前時から本時へ B.本時から次時へ といった角度から評価をこころみる。

以上を仮説的視点として、抽出児を評価する。評価項目ごとに記載事項を整理し、その関連点および記載事例を明らかにする。